

2024 年(1月1日～12月31日)活動報告

動物実験計画書の年間の承認件数

	新規	変更	軽微変更	計	計画数 ^{※1}
教育学部	1	0	0	1	1
医学部	42	3	42	87	147
医学部附属病院	10	1	6	17	41
バイオメディカル研究所	15	2	16	33	62
農学部	21	0	10	31	97
繊維学部	8	0	10	18	52
理学部	2	0	0	2	7
基盤研究支援センター	14	1	20	35	30
計	113	7	104	224	437

※1: 2024年より前に承認された計画も含み、2024年中に有効な承認期間が存在する実験計画の総数

施設の情報(機関の長によって承認された飼養保管施設および動物実験室)

飼養保管施設

	新規	廃止	総設置件数
教育学部	1	0	1
農学部	0	0	16
繊維学部	0	0	2
基盤研究支援センター動物実験支援部	0	0	39
計	1	0	58

動物実験室

	新規	廃止	総設置件数
理学部	0	0	1
医学部	0	0	32
農学部	0	0	17
大学院農学系研究科	0	0	1
繊維学部	1	0	11
基盤研究支援センター動物実験支援部	0	0	30
基盤研究支援センター遺伝子実験支援	0	0	3
基盤研究支援センター機器分析支援部	0	0	1
計	1	0	96

動物実験計画審査所要日数

最長所要日数 239 日

最短所要日数 2 日

平均所要日数 21 日

※研究支援課で受付した日～承認された日までの間

小委員会開催回数

医学系動物実験小委員会 69 回 (内訳: 新規・変更 25回、軽微変更 44回)

農学系動物実験小委員会 16 回 (内訳: 新規・変更 12回、軽微変更 4回)

教育訓練の実績(実施月日、実施内容の概略、参加者数)

- 実施内容の概略:**
- 1) 動物実験等に関する法令等、本学規程について(各種手続きほか)
 - 2) 動物実験等の方法に関することについて(計画における留意点ほか)
 - 3) 実験動物の飼養保管に関することについて(動物福祉の確保等留意点ほか)
 - 4) 安全確保、安全管理に関することについて(遺伝子組換え実験ほか)
 - 5) 人獣共通感染症に関することについて
 - 6) その他必要事項(施設利用の方法ほか)

松本キャンパス

	回数	年間合計参加人数 (学部学生を含む)	実施月日
教育訓練(施設利用 講習会含む)	15	114	1/25, 1/26, 4/24, 4/25, 4/26, 5/16, 6/20-21(医学科4年生自 主研究演習対象), 7/24, 7/25, 10/30, 10/31, 11/1, 11/7, 11/21, 12/13
教育訓練(再講習)	7	50	2/19, 3/27, 4/15, 6/11, 8/21, 10/15, 12/20
SPF区域講習会	3	4	4/10, 5/20, 12/17
感染区域講習会	2	7	2/27, 11/15

伊那キャンパス

	回数	年間合計参加人数 (学部学生を含む)	実施月日
教育訓練(施設利用 講習会含む)	7	66	4/11 4/23 7/10 7/23 7/24 10/22 10/25
教育訓練(再講習)	4	19	4/15 6/11 10/15 12/20

上田キャンパス

	回数	年間合計参加人数 (学部学生を含む)	実施月日
教育訓練(施設利用 講習会含む)	5	20	1/25, 4/24, 4/26, 10/31, 11/7
教育訓練(再講習)	2	2	4/15, 6/11

基盤研究支援センター動物実験支援部門 施設利用状況
集計年： 2024 年（1月1日～12月31日）

年間延べ入館者数： 19,212 人
利用登録者数： 524 人
施設見学者数(合計)： 61 人

動物数		動物飼養数		実験で犠牲となった動物数	
実験動物購入(導入)数					
動物種	数	動物種	数	動物種	数
マウス	2,507	マウス	8,924	マウス	35,305
ラット	790	ラット	249	ラット	1,130
モルモット	26	モルモット	2	モルモット	38
ウサギ	2	ウサギ	1	ウサギ	2
		※特定日の飼養数あるいは一日当たりの平均飼養数		※年間合計	

実施中の実験計画書における苦痛の категорияに関する集計

	カテゴリーA	カテゴリーB	カテゴリーC	カテゴリーD	計
件数	0	20	63	197	280
割合(%)	0.0	7.1	22.5	70.4	100.0

※カテゴリーA = 生物個体(動物の生体)を用いない実験あるいは植物、細菌、原虫、又は無脊椎動物を用いた実験
※カテゴリーB = 動物に対してほとんど、あるいはまったく不快感を与えないと思われる実験操作
※カテゴリーC = 動物に対して軽微のストレス又は痛み(短時間持続する痛み)を伴うと思われる実験
※カテゴリーD = 回避できない重度のストレス又は痛み(長時間持続する痛み)を伴うと思われる実験
※カテゴリーE (無麻酔下の動物に、耐える限界に近い又はそれ以上の痛みを与えられる実験)は承認されない。

定期検疫検査

SPF区域 4 回
普通区域 4 回
検疫結果はいずれも陰性

新規導入動物の検疫数

SPF区域 0 系統
普通区域 4 系統
検疫結果はいずれも陰性

胚操作業務

体外受精・胚移植
(クリーニング) 0 件
体外受精・胚移植
(系統維持) 2 件
胚凍結/融解 7/4 件
遺伝子改組動物作製
(CRISPR/cas9) 5 件
精巢上体尾部採取 0 件
精子凍結/融解 0/4 件

農学部 飼養保管施設利用状況
集計年： 2024 年（1月1日～12月31日）

動物実験者数	
教員	21 人
大学院生	53 人
学部学生	108 人
その他	9 人

動物数
実験動物購入(導入)数

動物種	数
マウス	1198
ラット	61
ニワトリ	420
ヒツジ	0
ウシ	4
ヤギ	0
クジャク	0

動物飼養数

動物種	数
マウス	1632
ラット	33
ニワトリ	280
ヒツジ	28
ウシ	70
ヤギ	10
クジャク	2

※特定日の飼養数あるいは
一日当たりの平均飼養数

実験で犠牲となった動物数

動物種	数
マウス	3883
ラット	61
ニワトリ	268
ヒツジ	0
ウシ	0
ヤギ	0
クジャク	0

※年間合計

実施中の実験計画書における苦痛の 카테고리に関する集計

	カテゴリーA	カテゴリーB	カテゴリーC	カテゴリーD	計
件数	0	44	27	26	97
割合(%)	0.0	45.4	27.8	26.8	100.0

※カテゴリーA = 生物個体(動物の生体)を用いない実験あるいは植物、細菌、原虫、又は無脊椎動物を用いた実験

※カテゴリーB = 動物に対してほとんど、あるいはまったく不快感を与えないと思われる実験操作

※カテゴリーC = 動物に対して軽微のストレス又は痛み(短時間持続する痛み)を伴うと思われる実験

※カテゴリーD = 回避できない重度のストレス又は痛み(長時間持続する痛み)を伴うと思われる実験

※カテゴリーE (無麻酔下の動物に、耐える限界に近い又はそれ以上の痛みを与えると思われる実験)は承認されない。

定期検疫検査	2 回
検疫結果はいずれも陰性	

新規導入動物の検疫数	0 系統
------------	------

繊維学部 実験実施状況

集計年： 2024 年（1月1日～12月31日）

動物実験者数

教員	7 人
大学院生	15 人
学部学生	36 人
その他	7 人

動物数

実験動物購入(導入)数

動物種	数
マウス	371
ラット	41
緬羊	0
カエル	5

動物飼養数

動物種	数
マウス	1002
ラット	173
緬羊	46
カエル	5

※特定日の飼養数あるいは
一日当たりの平均飼養数

実験で犠牲となった動物数

動物種	数
マウス	2,494
ラット	270
緬羊	0
カエル	99

※年間合計

実施中の実験計画書における苦痛の категорияに関する集計

	カテゴリーA	カテゴリーB	カテゴリーC	カテゴリーD	計
件数	0	12	31	9	52
割合(%)	0.0	23.1	59.6	17.3	100.0

※カテゴリーA = 生物個体(動物の生体)を用いない実験あるいは植物、細菌、原虫、又は無脊椎動物を用いた実験

※カテゴリーB = 動物に対してほとんど、あるいはまったく不快感を与えないと思われる実験操作

※カテゴリーC = 動物に対して軽微のストレス又は痛み(短時間持続する痛み)を伴うと思われる実験

※カテゴリーD = 回避できない重度のストレス又は痛み(長時間持続する痛み)を伴うと思われる実験

※カテゴリーE (無麻酔下の動物に、耐える限界に近い又はそれ以上の痛みを与えらると思われる実験)は承認されない。

参考：「実験動物」には該当しない実験計画で用いている動物や試料

両生類 = カエルを用いる計画(カテゴリーB) 1件

定期検疫検査

2 回

検疫結果はいずれも陰性

新規導入動物の検疫数

5 系統

検疫結果はいずれも陰性

理学部 実験実施状況
集計年： 2024 年（1月1日～12月31日）

動物実験者数	
教員	5 人
大学院生	0 人
学部学生	2 人
その他	0 人

動物数		動物飼養数		実験で犠牲となった動物数	
実験動物購入(導入)数					
動物種	数	動物種	数	動物種	数
ラット	8	ラット	8	ラット	8
牛	0	牛	9	牛	0
羊	0	羊	5	羊	0
		※特定日の飼養数あるいは一日当たりの平均飼養数		※年間合計	

実施中の実験計画書における苦痛の категорияに関する集計					
	カテゴリーA	カテゴリーB	カテゴリーC	カテゴリーD	計
件数	2	3		2	7
割合(%)	28.6	42.9	0.0	28.6	100.0

※カテゴリーA = 生物個体(動物の生体)を用いない実験あるいは植物、細菌、原虫、又は無脊椎動物を用いた実験
※カテゴリーB = 動物に対してほとんど、あるいはまったく不快感を与えないと思われる実験操作
※カテゴリーC = 動物に対して軽微のストレス又は痛み(短時間持続する痛み)を伴うと思われる実験
※カテゴリーD = 回避できない重度のストレス又は痛み(長時間持続する痛み)を伴うと思われる実験
※カテゴリーE (無麻酔下の動物に、耐える限界に近い又はそれ以上の痛みを与えられる実験)は承認されない。

参考：「実験動物」には該当しない実験計画で用いている動物や試料
カテゴリーA = 野生下で自然死した哺乳類の死体を用いる計画 1件
 猟友会が殺処分したニホンザルの死体を用いる計画 1件
野生動物 = 野生のニホンザルを用いる計画(カテゴリーB) 1件

教育学部 実験実施状況

集計年： 2024 年（1月1日～12月31日）

動物実験者数

教員	1 人
大学院生	0 人
学部学生	0 人
その他	0 人

動物数

実験動物購入(導入)数

動物種	数
ヤギ	2

動物飼養数

動物種	数
ヤギ	2

※特定日の飼養数あるいは
一日当たりの平均飼養数

実験で犠牲となった動物数

動物種	数
ヤギ	0

※年間合計

実施中の実験計画書における苦痛の 카테고리に関する集計

	カテゴリーA	カテゴリーB	カテゴリーC	カテゴリーD	計
件数	0	1	0	0	1
割合(%)	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0

※カテゴリーA = 生物個体(動物の生体)を用いない実験あるいは植物、細菌、原虫、又は無脊椎動物を用いた実験

※カテゴリーB = 動物に対してほとんど、あるいはまったく不快感を与えないと思われる実験操作

※カテゴリーC = 動物に対して軽微のストレス又は痛み(短時間持続する痛み)を伴うと思われる実験

※カテゴリーD = 回避できない重度のストレス又は痛み(長時間持続する痛み)を伴うと思われる実験

※カテゴリーE (無麻酔下の動物に、耐えうる限界に近い又はそれ以上の痛みを与えられる実験)は承認されない。